

オンリーワン



バリアフリー
ペーパー

10月号

平成22年10月26日発行

偶数月発行

この機関紙は、西条市障害者相談支援センターがパソコン就労をめざす障害当事者グループ「オンリーワン」に編集を委託し、協同で作成したものです。



秋祭りも終わり、すっかり秋らしくなってきました。祭りが終わっても太鼓や笛の音が聞こえるような気がするほどお祭り好きな私です…。今年もお祭りで帰省してきた親戚や友人と久々に会いました。不思議なもので「元気なで～？」の一言で一気に距離が縮まります。心地良い関係に自然と温かく、優しい気持ちになり、あらためて人と人の繋がりの大切さを感じました。今回のオンリーワンも新たな「繋がり」や「出会い」の情報が満載です。是非ご一読ください。（支援センター津島）

温かく優しい居場所…パソコンを通して仲間づくり…

いな穂（ふれあいいきいきサロン）

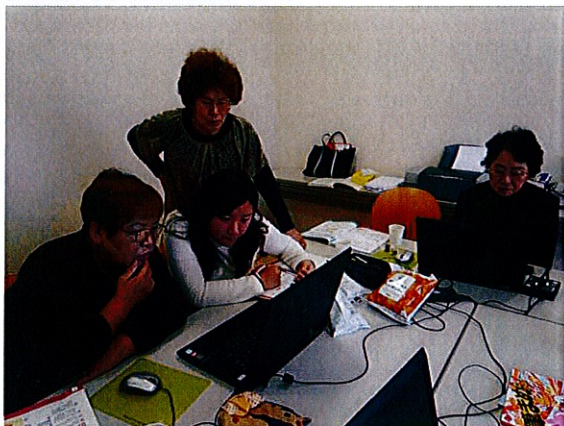
- *活動場所 東予総合福祉センター2階 ふらっと
- *開催日 2回/月（第2・4金曜日の午前10時～）
- *参加対象者 パソコンを勉強したい障害者と高齢者
- *参加人数 現在7人
- *参加費 500円/月
- *活動内容 パソコンの学習会・交流会・野外活動

社協開催の、障害者パソコン講座で知り合った仲間達が、続けて勉強したいと定期的に集まり始めて約1年。今年の春、色々な人が集える地域に開かれた場所にしたとサロンを設立しました。

高齢者と障害者がとじこもらない事と、パソコンを通して人と人とのつながりを持つ事を目的とした7人グループです。

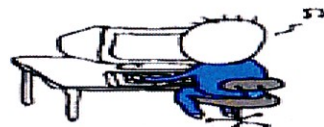
年齢、障害、タイプもさまざまです。会を引っ張るのは70代の女性。みんなの様子を温かく見守ります。先輩達に背中を押された若い当事者の方達も、集まる日が待ち遠しい様子です。一番若いのは19歳の娘さん。車椅子で参加されている方のお世話もすすんで引き受けてくれるとても優しい方です。何より嬉しいのは、彼女のご両親が成長を大変喜んでくれている事です。

障害者が外で何かに熱中して活動できる場は本当に限られています。高齢者にとっても、パソコンは指先の運動になり、認知症の防止になるため、関心を持つ人が増えています。「いな穂」は、大勢の前では恥ずかしくて聞けない事も気軽に習うことができる場です。



定例の勉強会の様子。ゆったりほのぼのとした空気に包まれ、老若男女の表情が和らぎます。

今年の4月、『いきいきサロン』に苗を植えました。暑かった夏を越し、見事に実った「いな穂」を、今後も一本一本と苗の数を増やし、高齢者・障害者に温かくて優しい居場所を絶やさぬよう、頑張っていきたいと思えます。（梅野）



当事者の奮闘記 未来への足跡(あしあと)



今回は、小松と周布で活動をしている知的障害者通所施設「地域活動支援センター あけぼの」さんを訪ねました。

現在作業所としての拠点は、周布にあります。タオル工場跡の広い建物の中で、「ねぎ」の箱詰め作業をしていました。このねぎは、「万能ねぎ」とか「小ねぎ」とか言われるもので、苗を育てるところから収穫まですべての工程を、メンバーさんが担当しているそうです。

利用者会の会長を務める、佐伯明美さん（31歳）とお話をする場を野口施設長さんに設けて頂きました。明美さんは、丹原町にある国広という所から、手帳を使ってバスで通っています。午前8時に家を出てバスに乗って、作業所には8時半には着くそうです。作業所は、基本的には午前9時～午後4時となっています。明美さんも早いほうですが、一番早い人は午前7時半に来ている人もいます。作業の工程は、基本的に内容別に担当者を決めて進めています。明美さんはすべての工程をこなすことが出来るので、施設長さんも助かっているとのことでした。また、明美さんは、11月に松山で開催される「小規模作業所の合同運動会」に参加することを楽しみにされています。ここだけの活動にとどまらず、障害者同士の交流の場にも積極的に参加し、活動の場を広げていることがうかがえました。

明美さんは、緊張ぎみのメンバーにそっと寄り合い優しく声をかけたり、自分達で育てたねぎを一本一本丁寧に選別作業していました。みんなの作業所を大切にしていきたいという思いが伝わります。これからも頑張ってくださいね。



箱詰め前の収穫したねぎ



選別と箱詰め作業風景



選別作業中の明美さん

野口施設長さんから、もう少し踏み込んだお話を聞きました。冒頭に書いた通り「小松と周布」で活動していますが、小松では「軽作業・陶芸・絵画・料理教室」などを行い、周布で農業をしているそうです。農業に関しては、農地が必要ですが「耕作放棄地」となった田畑を無償で借り受けることが出来るそうです。ねぎに関しても、収穫が年中可能なように畑によって収穫時期をずらしています。出荷先は、「周ちゃん広場」と「市場」で、「周ちゃん広場」には、ねぎ以外にも出荷の登録をしている農作物が35品目あるそうです。

今年の猛暑で、全国的にねぎが不足した際には、市場での値段が普段の約10倍にもなる時があったそうです。施設としての収入は、相場によって変動するため賃金も月で締めて、その月々の時給単価を決めています。



市場用5kg入りの箱



周ちゃん出荷のラベル



周布の建物と苗畑

農業の場合、作物に土日祝日は関係ありません。当番制で、メンバーもその当番に当たっているそうです。将来的には、「就労移行支援」「就労継続支援B型」、そして現在の「地域活動支援」を含めた総合的な施設を目指しているとのことでした。実際に、メンバーだった人が一般就労して、1年以上元気に働いているとの話もあり、通所はしていないけれど、金銭の管理や生活全般の相談に乗り、支援されているようです。

施設の理念を野口さんの言葉でそのまま書くと、「最後のセーフティーネット」だそうです。養護学校を出たけれど行き場がない人、大型施設に馴染まない人、就労に再チャレンジしたい人などが、集える場所にしたいとのことでした。現在の地域活動支援センターの役割も、①就労支援 ②福祉的就労 ③デイサービス ④相談業務 ⑤社会参加・地域交流 などを担う責任があると力のある説明をしてくれました。

最後になりましたが、サッカー(フットサル)にも力を入れているそうです。オンラインワンの紙面では、すべてを掲載出来ませんでしたので、「あけぼの」の連絡先や、ホームページアドレス、メールアドレスを書いておきますので、直接問い合わせてみて下さい。(大岩)

〒799-1371 西条市周布835-3 (周布作業場)

電話番号 0898-68-8015

携帯電話 080-6393-7450

メールアドレス akebono1205@cup.ocn.ne.jp

ホームページアドレス <http://www3.ocn.ne.jp/~akebono/top1.htm>



(イラスト しんすけ)



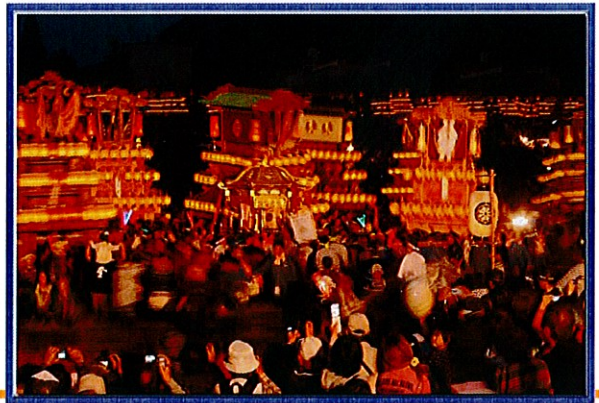


のぶちゃん・おーちゃんのべすとしょっと



「稲刈りと貝殻？」

秋晴れの日に、彼岸花を撮影に行った時、田んぼを歩いたのですが足元を見ると、たくさん貝殻がありました。自分の知識では意味がわからなくて、営農指導員をしていた友人に連絡しました。正体は、「ジャンボタニシ」だそうです。局地的に繁殖して、このような光景が見られるそうです。(^^) 撮影：おーちゃん



「西条祭り」(川入り)

西条祭りでは、クライマックスとも言える川入りの様子です。御神輿が祭りを終えるため、神社に戻るのを少しでも遅らせようと、だんじりが道を阻みます。当たり前ですが、川には水が流れています。見ている人からすると寒そうですが、入っている人は関係なさそうですね。

撮影：のぶちゃん

当事者の奮闘記 番外編

今年度も精神障害者のソフトバレー大会が開催され、僕たち西条の「スピードスター」は、東予地区予選を突破し、10月21日、松山市身体障害者福祉センターでの県大会出場を果たしてきました。

地区大会第1試合の「イエローハート」戦。事実上の優勝決定戦と思っていたカード。第3セットまでもつれこみ、接戦の末僅差で勝利をもぎ取りました!!。もうこの時はみんなでハグハグするほど沸きに湧きました。優勝決定戦となった「スマイリーときめき」戦は、あろうことか2セット連取され、あっさりと負けてしまいました。

準優勝チームとして臨んだ県大会。第1試合は再び「スマイリーときめき」戦。地区大会決勝の再現となりましたが、またも2セット連取されました。そして、第3試合、今大会の優勝チームとなった「オレンジスターズ」戦。2セット連取されましたが、接戦まで持ち込むことができた試合でした。

地区大会から1ヶ月、忙しい合間をぬって練習試合を含め、合同練習をやってきました。しかし、悔いの残る大会となりました。今度の大会では、より一層練習に励み、県大会優勝目指して頑張りたいと思います。(一色)



発行：西条市障害者相談支援センター（西条市社会福祉協議会）

編集：オンリーワン編集委員

〒799-1371 西条市周布 606 番地 1 西条市東予総合福祉センター内

TEL : 0898-64-2600 (代) FAX : 0898-64-3920 E-mail : soudan-saijo@galaxy.ocn.ne.jp